





番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-3	古典B	3	A理	2	必修

### 何を学ぶか

- ① 古文や漢文に用いられている語句の意味や用法、文の構造
- ② 文章や作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる方法
- ③ 主要な古文や漢文にみられる、人間や社会、自然などに対する各時代の思想や感情
- ④ 古典作品の表現上の特色や優れた表現
- ⑤ 日本文化の特質や日本文化と中国文化との関係

### 学習目標

- ・2年生で身につけた読解力をより高めるとともに、古典的知識も深め、ものの見方や感じ方・考え方を広げる。
- ・基礎的な知識を確認しながら、さまざまな内容や文体の古文や漢文に慣れ親しむことを通して、人生を豊かにする態度を養う。
- ・問題演習にも積極的に取り組む。

### 学習方法

- ・予習として、本文をノートに写し、単語の意味や漢字の読み方などの基本的事項を調べ、音読しておく。自分なりに現代語訳しておく、授業中の学習がより効果的に行える。
- ・授業中は訳を単に写したり修正したりするだけでなく、文法等の重要事項も確認し、語彙や文法事項の知識などをふまえて、そのような訳になる理由を考える。
- ・学習した知識を定着させるために、復習は必要である。国語便覧を活用し、作者の思想や作品の文学史的な位置づけ、作品の成立した時代背景等を調べたり、文法テキストを基に文法の理解を深める。

### 評価方法

- ・定期考査は1、2学期の中間・期末と学年末考査の計5回実施する。また授業時には週ごとに小テストなどを実施する。
- ・評価は定期考査を8割、小テストや提出物、授業への取り組みなどを平常点として2割の割合で行う。

### 授業予定

「▼」は定期考査の時期を示す

分野	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬									
古文	説話	■	■																							
	物語				■	■	■									■	■	■								
	俳諧								■																	
	日記												■	■	■											
	評論																			■			■	■		
	文法	■	■							■				■	■	■		■	■	■		■	■			
漢文	逸話				■	■																				
	史伝														■	■										
	漢詩								■	■																
	小説・文章																					■	■			
	句法・重要語				■	■			■	■					■	■										



番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-5	国語特講	3	S文	2	選択

### 何を学ぶか

・1・2年で学んできた国語力を「総合的な国語力」に高めるための演習を中心とした学習活動を行う。大きく、  
 現代文と古典の二分野からなるが、どちらの分野についても、受験を視野に入れた学習から、読解力・語彙力の強化といった基礎的な学習まで幅広く行う。  
 ・また、課題に応じて必要な情報を収集・分析・整理し、的確な日本語で表現して発表をするなどの表現分野

### 学習目標

・表現、理解の基礎となる語彙、文法、漢字の読み書き等について、正しく理解・修得する。  
 ・読解力や鑑賞力を高め、論理的思考力と発想力、豊かな感受性を養う。  
 ・文章読解を通して、自分と自分をとりにくく環境を見つめ、自らの意見を持てるようにする。  
 ・古典の読解力をより高めるとともに古典の知識も深め、ものの見方や感じ方、考え方を広げる。  
 また、基本的な知識を確認しながら、さまざまな内容や文体の古文や漢文の読解を通して、人生を豊かにする態度を養う。

### 学習方法

■現代文・古文・漢文のいずれも授業内で示す課題に、受身ではなく、自ら真摯に取り組むこと。  
 ① 現代文：授業ではスピーディーに文章読解につなげられるよう、語彙力をつけるべく常に辞書等で確認できるように準備して臨むこと。  
 ② 古典(古文+漢文)：授業では、文のポイントを理解し、自力で現代語訳ができるように、単語や古典文法・漢文句法などを確実に身につける。

### 評価方法

・定期検査点(それに準ずる小テストを含む)と平常点(提出物、小テスト、授業参加等)を、5:5の割合に換算して評価する。

### 授業予定

「▼」は定期検査の時期を示す

分野	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																			
現代文	演習	■	■			■			■	■						■	■			■	■																	
	表現					■										■	■																					
古文	演習				■	■				■	■										■	■																
	古典文法				■	■				■	■										■	■																
漢文	演習									■																												
	句法									■	■																											

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-6	国語特講	3	A	3	選択

何を学ぶか

・1・2年で学んできた国語力を「総合的な国語力」に高めるための演習を中心とした学習活動を行う。大きく、  
 現代文と古典の二分野からなるが、どちらの分野についても、受験を視野に入れた学習から、読解力・語彙力の強化といった基礎的な学習まで幅広く行う。  
 ・また、課題に応じて必要な情報を収集・分析・整理し、的確な日本語で表現して発表をするなどの表現分野

学習目標

・表現、理解の基礎となる語彙、文法、漢字の読み書き等について、正しく理解・修得する。  
 ・読解力や鑑賞力を高め、論理的思考力と発想力、豊かな感受性を養う。  
 ・文章読解を通して、自分と自分をとりにまく環境を見つめ、自らの意見を持てるようにする。  
 ・古典の読解力をより高めるとともに古典の知識も深め、ものの見方や感じ方、考え方を広げる。  
 また、基本的な知識を確認しながら、さまざまな内容や文体の古文や漢文の読解を通して、人生を豊かにする態度を養う。

学習方法

■現代文・古文・漢文のいずれも授業内で示す課題に、受身ではなく、自ら真摯に取り組むこと。  
 ① 現代文：授業ではスピーディーに文章読解につなげられるよう、語彙力をつけるべく常に辞書等で確認できるように準備して臨むこと。  
 ② 古典(古文+漢文)：授業では、文のポイントを理解し、自力で現代語訳ができるように、単語や古典文法・漢文句法などを確実に身につける。

評価方法

・定期検査点(それに準ずる小テストを含む)と平常点(提出物、小テスト、授業参加等)を、5:5の割合に換算して評価する。

授業予定

「▼」は定期検査の時期を示す

分野	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																		
現代文	演習	■	■			■			■	■							■	■			■	■															
	表現					■											■	■																			
古文	演習				■	■				■	■											■	■														
	古典文法				■	■				■	■											■	■														
漢文	演習									■																											
	句法									■	■																										





番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-9	日本史A	3	A文	2	選択必修

何を学ぶか

(1)近代史・近現代史を中心に日本の歴史を学ぶ。  
(2)日本文化の特色や伝統への理解を深める。  
(3)複雑化した国際社会の中で生きる日本の方向性について考察する。

学習目標

○近代・近現代の日本史の展開を世界史的な視野に立って考察し、自国の歴史や文化・伝統への認識と誇りを深めるとともに、歴史的思考力を養い、国民としての自覚を持って複雑化した国際社会の中で生きる資質を培う。

学習方法

(1)世界史や地理、政治経済などの地歴公民科の小教科との連携を図る。  
(2)国際関係を重視し、広い視野から多面的・多角的に歴史的事象を総合的に考察する。  
(3)資料集を活用したり、様々な情報(新聞やTなどで)を収集する。  
(4)ノートに授業内容をまとめ、配布されるプリント類を添付して、日本史ノートを作成する。  
(5)文化史に関するプリントを、教科書・資料集を活用して完成させる。

評価方法

○評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度(興味・関心、意欲、知識、授業姿勢)を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																		
日本史B	原始・古代	■	■																																		
	中世	■	■																																		
	近世				■	■	■	■																													
	近代																																				
	近現代1																																				
	近現代2																																				



番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-11	日本史B	3	S文・P	4	選択

### 何を学ぶか

- (1) 原始古代から現代までの日本の歴史を学ぶ。
- (2) 日本文化の特色や伝統への理解を深める。
- (3) 複雑化した国際社会の中で生きる日本の方向性について考察する。

### 学習目標

○ 原始古代からの日本史展開を世界史的な視野に立って考察し、自国の歴史や文化・伝統への認識と誇りを深めるとともに、歴史的思考力を養い、国民としての自覚を持って複雑化した国際社会の中で生きる資質を培う。

### 学習方法

- (1) 世界史や地理、政治経済などの地歴公民科の小教科との連携を図る。
- (2) 国際関係を重視し、広い視野から多面的・多角的に歴史的事象を総合的に考察する。
- (3) 資料集を活用したり、様々な情報(新聞やTなどで)を収集する。
- (4) ノートに授業内容をまとめ、配布されるプリント類を添付して、日本史ノートを作成する。
- (5) 文化史に関するプリントを、教科書・資料集を活用して完成させる。

### 評価方法

○ 評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度(興味・関心、意欲、知識、授業姿勢)を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

### 授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																		
日本史B	原始・古代	■	■	■																																	
	中世																																				
	近世																																				
	近代																																				
	近現代1																																				
	近現代2																																				

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-12	世界史演習	3	S文・A文	3	選択

### 何を学ぶか

・近代から現代までの世界の歴史を中心に学ぶことを通じて、現在の社会や自らの存在を歴史的な視点から捉えることの大切さも学んでいきます。

### 学習目標

- 1 世界が一体化した近・現代の歴史を学習し、現在の私たちの社会がどのような経過のなかで成立したかを理解することを目標とします。
- 2 現代の人類が直面する諸課題を歴史的にとらえられるようにし、その解決方法を主体的に考えられるようになることを目標とします。

### 学習方法

- 1 歴史の流れを、原因・事象・結果の因果関係で捉えていきます。
- 2 授業を軸に、家庭での復習を合わせて知識の定着を図ります。
- 3 地図や図を用いて縦と横のつながりを把握する授業を行います。
- 4 教科書の内容理解を基本としながら、視覚資料を用い具体的イメージをもちながら学習していきます。
- 5 進学希望者には放課後の進学補習、長期休業中の講習などを行いません。
- 6 大学受験に対応する力をつけるため、センター試験や大学入試の問題演習を行います。

### 評価方法

○ 評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度(興味・関心、意欲、知識、授業姿勢)を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

### 授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月					
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																					
世界史演習	近世ヨーロッパ	■	■																																		
	アジア諸地域の帝国			■																																	
	市民革命																																				
	近代の国民国家																																				
	帝国主義																																				
	第一次世界大戦																																				
	戦間期の世界																																				
	第二次世界大戦																																				
	大戦後の世界																																				

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-13	日本史演習	3	S文・A文	3	選択

### 何を学ぶか

- (1) 原始古代から現代までの日本の歴史のなかで、特に江戸幕末から明治・大正・昭和の近現代史を中心に学習する。
- (2) 日本文化の特色や伝統への理解を深める。
- (3) センター試験を中心とした入試対策として問題演習を実施する。

### 学習目標

○ 原始古代から現代までの日本史展開を世界史的な視野に立って考察し、自国の歴史や文化・伝統への認識と誇りを深めるとともに、歴史的思考力を養い、国民としての自覚を持って複雑化した国際社会の中で生きる資質を培い、大学入試突破の基礎力を養成する。

### 学習方法

- (1) 国際関係を重視し、広い視野から多面的・多角的に歴史的事象を総合的に考察する。
- (2) 資料集や新聞やTV、DVDなどを活用し様々な情報を収集する。
- (3) 配布されるプリント類を綴じて、日本史ノートを作成する。
- (4) 課題となる文化関係プリントを教科書、資料集を活用して完成させる。
- (5) 過去のセンター入試問題などを中心に実践問題演習を進める。

### 評価方法

○ 評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度(興味・関心、意欲、知識、授業姿勢)を2割～3割程度の割合で総合的に行う。

### 授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																			
日本史B	江戸幕末	■	■	■																															
	明治				■	■	■	■																											
	大正・昭和																																		
	現代社会																																		
	問題演習																																		

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-14	政治・経済	3	S文	3	選択

### 何を学ぶか

○ 本校公民科では、1年生の「現代社会」と3年生の「政治・経済」を有機的に関連づけてとらえ、同じ学習事項の重複をなるべく避けようとしています。そのために、

- ・1年生の「現代社会」では、おもに法律・政治・社会問題領域を、
- ・3年生の「政治・経済」ではおもに経済と国際社会関係の基礎的な事項の学習を行います。

### 学習目標

1. 民主主義や資本主義経済の基礎的な原理を理論的・体系的に理解する。
2. 現代の政治、経済、国際関係などについて客観的に理解する。
3. 1、2の理解を踏まえ、またテレビのニュースや新聞記事に触れる機会を持つことにより、現代の諸課題について、多面的・多角的かつ主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民としての能力・態度を育てる。  
学習した内容から現代の政治・経済の課題等を考察できるようになることで、学習に対する意欲を向上させる。

### 学習方法

授業は

- (1) 原則として教科書に沿って進める。
- (2) 資料・ビデオ等の活用。
- (3) 点検をするので必ずノートをとる。
- (4) 小テストを行い、知識の定着を図る。
- (5) 1日に1回はテレビのニュースや新聞記事に目を通すこと。
- (6) 授業に必要なものは絶対に忘れない。教科書、ノートなど。

### 評価方法

○ 評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度(興味・関心、意欲、知識、授業姿勢)を2割～3割程度の割合で総合的にこなう。

### 授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬															
政治・経済	経済活動の意義と経済体制	■																													
	現代経済のしくみ	■																													
	日本経済と福祉の向上																														
	国際経済の動向																														
	国際経済の課題と国際協力																														
	現代日本の諸課題																														
	国際社会の諸課題																														

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-15	政治・経済	3	A文	4	選択

何を学ぶか

○ 本校公民科では、1年生の「現代社会」と3年生の「政治・経済」を有機的に関連づけてとらえ、同じ学習事項の重複をなるべく避けようとしています。そのために、  
 ・1年生の「現代社会」では、おもに法律・政治・社会問題領域を、  
 ・3年生の「政治・経済」ではおもに経済と国際社会関係の基礎的な事項の学習を行います。

学習目標

1. 民主主義や資本主義経済の基礎的な原理を理論的・体系的に理解する。
2. 現代の政治、経済、国際関係などについて客観的に理解する。
3. 1、2の理解を踏まえ、またテレビのニュースや新聞記事に触れる機会を持つことにより、現代の諸課題について、多面的・多角的かつ主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民としての能力・態度を育てる。  
 学習した内容から現代の政治・経済の課題等を考察できるようになることで、学習に対する意

学習方法

- 授業は
- (1)原則として教科書に沿って進める。
  - (2)資料・ビデオ等の活用。
  - (3)点検をするので必ずノートをとる。
  - (4)小テストを行い、知識の定着を図る。
  - (5)1日に1回はテレビのニュースや新聞記事に目を通すこと。
  - (6)授業に必要なものは絶対に忘れない。教科書、ノートなど。

評価方法

○ 評価は、定期考査を7割～8割程度、小テスト、課題、授業態度(興味・関心、意欲、知識、授業姿勢)を2割～3割程度の割合で総合的にこなう。

授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬															
政治・経済	経済活動の意義と経済体制	■	■	■																											
	現代経済のしくみ				■	■	■																								
	日本経済と福祉の向上							■	■																						
	国際経済の動向																														
	国際経済の課題と国際協力																														
	現代日本の諸課題																														
	国際社会の諸課題																														
	問題演習																														



番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-17	数学Ⅲ	3	A理	6	選択

何を学ぶか

○高校における数学学習の締めくくりとして、またより高度な数学への入り口として、微分学・積分学の基礎を学びます。  
 ・複素数平面では、複素数に関する知識を深め、2次曲線では、放物線・楕円・双曲線について、関数では、分数関数・無理関数について、極限では、数学Bで学習した数列の極限をさらに深く学習するとともに、関数の極限も学習し、次の微分・積分への基礎的概念を学びます。  
 ・微分法・積分法では、数学Ⅱで学習した3次までの関数に加え、高校数学で学習したすべての関数について微分・積分の計算を学びます。そして、変曲点などの学習でグラフの精密な形についても理解を深

学習目標

○近代科学技術の発展を可能にした数学の手法を習得すると同時に、既習の分野への応用を通して、その力を体験します。  
 ○科学技術史についても適宜教材化することとし、とりわけ物理との関係を認識します。  
 ○解答の推敲指導を通して、知識を表現することの重要性についても注意を向けます。  
 ○理系大学への進学を目指して、自らの実力を養成する姿勢を身につけます。

学習方法

○予習は、教科書に目を通し、例題の解法についての理解に努めます。  
 ○復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。  
 ○長期休業中は教科書や傍用問題集で復習した後、参考書や入試問題集で高度な問題も解けるようにしてください。  
 ○進学に向けた取り組み(補習・模試等)に、積極的に参加してもらうことで実践力を高めます。

評価方法

○定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。  
 ○評価の割合  
 「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」40%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

科目	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬									
数学Ⅲ	複素数平面	■	■	■																				
	極限				■	■	■																	
	微分法							■	■	■														
	微分法の応用									■	■													
	積分法とその応用													■	■									
数学Ⅰ・A・Ⅱ・B	入試問題演習														■	■	■	■	■	■	■	■	■	

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-18	数学Ⅱ	3	P	4	選択

### 何を学ぶか

○数学Ⅱは、方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分積分について学びます。  
 ○定理や公式を証明し、それらを演習問題を解くことを通して、数学的な能力を身に付けていきます。

### 学習目標

○基礎的な知識の習得と問題を解く力の習熟を目指します。  
 ○事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用する態度を育成します。  
 ○数学的な考え方や論理的思考力を養います。

### 学習方法

○予習は、教科書に目を通し、例題の解法についての理解に努めます。  
 ○復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。  
 ○毎日続けることが大切です。

### 評価方法

○定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。  
 ○評価の割合  
 「知識・技能」50%、「思考・判断・表現」30%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

### 授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																			
数Ⅱ	方程式・式と証明	■											■	■	■																				
	図形と方程式	■			■	■	■	■						■	■	■																			
	三角関数																																		
	指数・対数関数																																		
	微分と積分																																		

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-19	数学演習	3	S文	2	選択

### 何を学ぶか

○数学演習は、1・2年で履修した数学ⅠAと数学ⅡBの演習を行う。実践方式で、問題演習に取り組み、その解説を行います。

### 学習目標

- 基礎的な知識の習得と問題を解く力の習熟を目指します。
- 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用する態度を育成します。
- 数学的な考え方や論理的思考力を養います。

### 学習方法

- 予習・・・配布教材に目を通し、問題の解法について理解に努めてください。
- 復習・・・今日習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集等で、類題を別のノートに解いて、さらに理解を深めます。

### 評価方法

- 定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
- 評価の割合  
「知識・技能」50%、「思考・判断・表現」30%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

### 授業予定

科目	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬									
数学演習	演習	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-20	数学演習	3	A文	3	選択

### 何を学ぶか

○数学演習は、1・2年で履修した数学ⅠAと数学ⅡBの演習を行う。実践方式で、問題演習に取り組み、その解説を行います。

### 学習目標

- 基礎的な知識の習得と問題を解く力の習熟を目指します。
- 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用する態度を育成します。
- 数学的な考え方や論理的思考力を養います。

### 学習方法

- 予習・・・配布教材に目を通し、問題の解法について理解に努めてください。
- 復習・・・今日習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集等で、類題を別のノートに解いて、さらに理解を深めます。
- 毎日、予習・復習を行うことが大切です。
- 進学に向けた取り組み(補習・模試等)に、積極的に参加してもらうことで実践力を高めます。

### 評価方法

- 定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み状況を中心に観点別に評価します。
- 評価の割合  
「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」40%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

### 授業予定

科目	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月					
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																					
数学演習	演習	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■



番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-22	化学	3	S理・A理	4	選択

何を学ぶか

○『化学基礎』で学んだ内容をもとに、化学の本質に迫って行く。  
 ・前半では、気体・溶液・反応速度・化学平衡を、後半では無機物質の性質の各論・有機化合物を学習する。  
 ・また、それぞれの物質がその特徴をいかして私たちの日常生活の中で利用されていることや、人間と化学の関わり方を考える。

学習目標

○気体・希薄溶液の性質元素、化学反応の速さ・化学平衡の仕組みを通して物理化学の分野を、非金属元素の単体・化合物、金属元素の単体・化合物を典型元素と遷移元素に分けて学習し、性質・用途を理解する。その後、有機化合物の特徴を理解し分析法を身につける。  
 ○また、炭化水素・脂肪族化合物・天然有機化合物・高分子化合物の性質・用途を理解する。  
 ○以上を通して、化学的な見方、考え方を養うとともに、自然科学全体に対する興味・関心を引き起こす。

学習方法

○基礎的な学習を大切に、特に一つ一つの用語の定義や意味をしっかりと理解できるように丁寧に学習する習慣を身につける。また、実験や画像を通して、五感を通して物質をとらえていくことを重視する。  
 ○化学基礎に比べて、数式の取り扱いが多くなるが、演習の時間も多く使いながら、問題を解くことで理論を実感できるようにする。あくまで、授業をしっかりと聞いて、授業の中ですべてのことを解決していく集中力を期待している。  
 ○化学は実験からスタートする学問だ。実験は積極的に行ない、多くのことを実験から学んでほしい。実験レポートは丁寧に考察しながら書き上げるように取り組む。

評価方法

定期考査を中心に、実験レポートなども含めて知識・理解・興味・意欲等を総合的に判断する。  
 実験レポート等は1割程度とする

5月      7月      10月      12月      1月

○は定期考査実施予定

授業予定

科目	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬									
化学	気体																								
	溶液																								
	化学反応の速さ																								
	化学平衡																								
	非金属元素																								
	典型金属元素																								
	遷移元素																								
	脂肪族炭化水素																								
	脂肪族化合物																								
	芳香族化合物																								
	天然有機化合物																								
	高分子化合物																								

番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-23	生物	3	S理・A理	4	選択

### 何を学ぶか

- 生物基礎の内容を、さらに深く掘り下げて、次の事柄を学習する。
  - ・細胞、タンパク質、代謝(生体内での化学反応)等について
  - ・遺伝子とそのはたらきについて
  - ・有性生殖と発生について(動物を中心に)
  - ・動物の刺激受容と反応・行動、植物の環境に対する反応について
  - ・生物の集団(個体群、生物群集)のあり方、生物集団と環境の関係について
  - ・生物進化と系統について

### 学習目標

- 生物や生物現象に関する概念や原理・法則を理解し、生物学的にとらえる力を養う。
- 授業や実験を通して科学的に探究する態度や能力を深める。
- 身の回りの生物や生命現象に対する関心や探究心を高める。
- さらに生物や生命現象と人間の関わりについての理解を深める。

### 学習方法

- 授業前に必ず教科書に目を通しておく。その際、専門用語やわからない語句を調べておくこと。
- 授業中は先生の説明をよく聞き、分からない所はその時間内に解決すること。
- 家庭学習において、ノートや問題集を用いて、より深く理解するように努力すること。
- 実習・実験には興味関心を持ち積極的に参加し、その中で協力的態度を身につける。
- また、実験レポート等、提出物を丁寧に作成すること。

### 評価方法

- ・定期考査は年間5回実施する。授業内容の確認として小テストを実施する場合もある。
- ・年間7回程度の実験を行い、レポートを作成する。
- ・考査点と平常点(1~2割)で評価する。
  - \* 平常点は、提出物の状況・小テスト・授業態度等により知識・理解・興味・意欲の観点から評価する。

○5月

○7月

○10月

○12月

○1月

○は定期考査実施予定

### 授業予定

科目	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬									
生物	生命現象と物質	■	■	■	■																			
	遺伝子のはたらき					■	■	■	■															
	生殖と発生												■	■	■									
	生物の環境応答														■	■	■							
	生態と環境																	■	■	■				
	生物進化と系統																					■	■	



番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-25	地学基礎	3	S文・A文	2	選択

### 何を学ぶか

- 地球とそれを取りまく宇宙のようすを知り、これらがどのように誕生し、どのように遷移して現在に至ったのか、またこれらのことがどのようにして明らかにされてきたかを学びます。
- 内容は「固体地球とその変動」、「移り変わる地球」、「大気と海洋」、「宇宙の構成」、「自然との共生」。

### 学習目標

- 一つは惑星としての地球の特徴および地球表層や内部に見られる地学的事象を、地球表層や内部を相互に関連させ、地球の歴史の経過の中でとらえることです。
- もう一つは地球の大気圏及び水圏での現象が太陽放射エネルギーを原動力としていることと、太陽や恒星の活動を通して宇宙の構造や広がりを理解することです。

### 学習方法

- 教科書については、本文を熟読することはもちろんのこと、図表・グラフ・写真などについても丁寧にすみずみまで目を通し、地学の基本的な概念の形成を図ります。
- 実習の時間については、各単元の学習活動と関連させながら、図表の読みとりやグラフ等のデータ処理を通して考察をします。
- また、実験観察や自然観察を通して、学習目標と関連させながら、深く学習していきます。

### 評価方法

- 定期考査については、1・2学期に中間・期末考査と3学期に学年末考査を実施します。
- 実習や実験観察などに関する提出物は、創意工夫されているかに着目します。
- これらを中心に知識・理解・興味・意欲の到達度の度合いを判断し評価します。

### 授業予定

科目	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬									
地学基礎	地球の構成と運動	■	■	■	■					■	■	■												
	地球の変遷						■	■	■	■														
	大気と海洋									■		■	■	■	■									
	太陽系と宇宙										■	■	■	■	■									
	地球の環境																		■			■	■	







番号	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-29	スポーツⅡ	3	S文	2	選択

何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、計画的に運動を実践できる能力を養う。
- ③ 科学的根拠に基づいた運動実践により自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

・各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

- ・1学期始めに、オリエンテーションをし、集団行動・トレーニングを行う。その後、生涯スポーツの基礎を養う観点から、自ら考え活動していくことを目的として、種目選択のグループ学習での授業となる。
- ・活動は前期・後期に分け、希望の多い決定種目でグループを作り、各グループで練習計画を作成し、リーダーを中心に授業を進める。
- ・グループで協力し、各種目の技術向上を目指し、生涯体育に繋げることを目標とする。

評価方法

- ・種目ごとに、①運動技能(40%)、②関心・意欲・態度(40%)、③思考・判断(10%)、④知識・理解(10%)の割合で総合的に評価する。
- ・評価内容は、①運動技能は個々のスキル点、②関心・意欲・態度は参加状況と活動意欲、③思考・判断はゲーム点と課題感想レポート、④知識・理解は練習計画の立案、グループ運営等の理解

授業予定

科目	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬									
スポーツⅡ	男子	■	■	■						■	■	■									■	■
	女子	■	■	■						■	■	■									■	■
	後期選択	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■	■	■	■	■	■

\*種目は ・ネット型(テニス・バドミントン・バレーボール) ・ゴール型(サッカー・バスケットボール)  
 ・ベースボール型(ソフトボール)



























